

岩手大学人文社会科学部同窓会「七友会」2026年度評議員会 概要報告

- 1 日 時 2026年6月20日(土) 13時～14時30分
- 2 場 所 ホテルニューカリーナ 2階 アイリス
- 3 出席者 27名
- 4 内 容

進行：白根徹理事

- (1) 開会 相澤文恵副会長

- (2) 会長あいさつ 長澤秀則会長

昨年度の評議員会では、評議員会・理事会・事務局体制のあり方、支部のあり方、女性役員の登用等についてご意見をいただいた。

会長就任後、他学部の情報を収集するなどして、課題を整理したので、今回の重点取組として皆様へ提案させていただきたい。

まずは、2025年の基本方針を**多世代参加型の「サステナブルな七友会」**として提案したい。これまで1期生を中心に、会員間の交流や母校の発展に大きく貢献いただいたが、その実績を基に更に進化・発展させていきたい。重点取組として**「情報提供の充実」「職域単位を含む支部活動に対する支援」「多世代参加型の魅力ある活動の検討」「事務局体制の強化」「人社50周年、岩手大学80周年記念事業の支援」**の5つを提案させていただくので、忌憚のないご意見を頂戴したい。

- (3) 議事 会則第9条により議長は長澤会長。3議案のうち第2号議案については、修正を加えた上で承認された。

議案説明：高橋享孝副会長

- ① 第1号議案 2025年度事業報告、会計決算報告
 - ・第33回岩手大学同窓会連合理事会（5月16日）
長澤会長（同窓会連合長）、鈴木幹事（同窓会連合理事）出席
 - ・評議員会（6月14日 エスポワールいわて）
2号議案（2025年度予算案）については、一部修正の上、承認
 - ・第34回岩手大学同窓会連合会理事会（6月12日）
岩手大学同窓会連合東北銀行支部の登録について
 - ・岩手大学同窓会トークカフェin仙台（7月26日）
長澤会長、相澤副会長、ほか理事3名出席
 - ・第35回岩手大学同窓会連合会理事会（6月12日）
岩手大同窓会トークカフェin東京について
 - ・岩手大学ホームカミングデイ（岩手大学）
長澤会長出席
 - ・七友会だより（第55号）発行（3月24日）

- ・一般会計決算額：収入6,535,048円－支出5,121,881円＝差引残額1,413,167円は2026年度に繰り越す。
- ・特別会計決算額：収入支出とも43,912,821円

監査報告：藤村紀行監査員（正しく会計処理されている旨、報告。）

【質疑】

＜第1号議案＞

- ・資料P3 表中段に「2024年度収支決算」とあるが、2025年度の誤りでは。同様に下段「2025年度の決算について～」の部分は2026年度の誤りでは。→ご指摘のとおり。訂正したい。
- ・資料P1 事務局体制の検討として、専従事務局員の採用とあるが、具体的なことは決まっているのか。
→他学部の状況を参考とした検討だが、アルバイト1名を配置し、学部内にお借りしている七友会事務室でメールの確認、ホームページの管理、会議資料の作成、卒業生名簿の管理等をお願いしたい。早ければ今年度の7～8月以降にも採用としたい。

＜第2号議案＞

- ・会則に定める理事会が開催されておらず、実質的に機能していない。評議員会準備会議、作戦会議の活動はあるようだが、盛岡在住の役員で行われているものと察する。他の会では「会長が指名する常任理事を招集し、理事会を開催」という形も検討しては。
→理事会が開催できていないことはご指摘のとおり。近場の集まれる役員で運営しているのが実態。予算の限りもあるのでweb会議を活用した理事会の開催等、検討の上、取り組んでいきたい。
常任理事という意見もあったが、各年次から数名という評議員のあり方等、規約の見直しも含め今後の検討課題としたい。

- ・そろそろ卒業生の逝去が増えてくる七友会の歴史となってきた。亡くなったことを把握できずに会報が送られ続けるという状況は避けたい。「ご逝去の情報があれば事務局まで」の一文を会報に掲載してほしい。
→現在、会員名簿の管理を人社の鈴木教授に一任している状況だが、専従職員採用の件と合わせ、名簿の適正管理についても検討していきたい。

- ・資料P4 「1 基本方針」4行目「2028年度の人社50周年～」は、2027年度の誤りでは。また、「4 七友会だより」も発行年も2028年3月とあるが、2027年3月の誤りでは。
→ご指摘のとおり。訂正したい。

・資料P4 「2 重点取組(4) 事務局体制の強化」の説明で、専従の臨時職員を採用とあったが、どのような人材を想定しているのか。また、人選に当たり七友会員への情報提供などはあるのか。

→現時点では、採用条件を限定していないが、週数日、数時間の勤務形態で探している。

・専従者の採用に関しては賛成するが、名簿の管理は非常に重要となる。過去に同窓会連合の中で、全学単位の卒業生名簿システム管理という話があったが、現在の状況は。

→全学単位の情報は聞いていない。北桐会（教育学部）では、独自システムを開発し運用していると聞く。まずは、現在の本会の名簿管理方法を確認した上で、他学部の既存システムを流用するなどし、コスト抑制を図りながら検討していきたい。

・同窓会連合の情報入手に努めてもらいたい。

→承知した。

・名簿管理の話が出たので、過去の経緯を説明する。名簿＝個人情報の扱いは慎重さを求められる。紙印刷管理もNGとし、現在管理されている方をお願いしたい。名簿を冊子として発行する他学部もあるが、本会は本人承諾の必要性等を鑑み発行しなかったという経緯がある。

職員の採用に当たっては、少なくとも同窓生に限定するとか、事務局の管理が確実に行き届くようにするとか、人選方法等を徹底的に議論すべき。

→名簿の発行は考えていない。あくまでも会報の送付先管理として名簿を活用していく。採用条件や個人情報の管理方法に関しては、ご指摘を踏まえ検討していきたい。

・決定事項としての事後報告ではなく、検討状況の中間報告などを求める。特にも同窓生以外を事務局員として採用するのであれば、ホームページやLINEを活用し、会員へ事前にお諮り願う。

→ご意見を踏まえ対応していく。現在、名簿を管理している先生も教授になられたので、ご負担を軽減させていきたい。

・デジタルアーカイブに100万円が計上されているが、現在の進捗状況はいかに。素材の収集方法等、全く見えてこない。

→学部の方で500万円を目標額と設定し、進めているもの。七友会としてその要望にお応えし、昨年度と今年度で予算化し、直近の会報でもお伝えしている。それによると「4月から予告版を学部ホームページに掲載予定」とあるが、遅れているようなので、見守りつつ、素材募集等の情報があったら共有していきたい。

・500万円の契約内容は、七友会として確認すべき。

→学部と連携を密にしていきたい。

- ・内容、進捗が確認できた上で、予算の執行とすべき。

→ご意見を踏まえ対応してきたい。

<第3号議案>

→意見なし

(4) 閉会 相澤文恵副会長

評議員会終了後、懇談会を同会場で行い、24人の参加があった。丸山仁学部長にも御出席いただき、盛会裏に終了した。